

社会資本整備審議会 道路分科会 関東地方小委員会
(令和4年度第1回)議事概要

1. 日 時 令和5年3月10日(金) 10:00~11:50

2. 場 所 九段第3合同庁舎15階会議室(WEB会議併用)

3. 出席者

[委員長]

屋井 鉄雄 (東京工業大学副学長)

[委員]

秋葉 正一 (日本大学生産工学部土木工学科教授)

大下 茂 (帝京大学経済学部観光経営学科教授)

鬼沢 良子 (NPO法人「持続可能な社会をつくる元気ネット」理事長)

久保田 尚 (埼玉大学大学院理工学研究科教授)

谷口 綾子 (筑波大学システム情報系教授)

藤山 知加子 (横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授)

二村 真理子 (東京女子大学現代教養学部国際社会学科教授)

前田 栄治 (千葉県経済同友会副代表幹事)

[関東地方整備局]

道路部長 松本 健

道路企画官 永江浩一郎

長野国道事務所長 小澤 知幸

常陸河川国道事務所長 日下部 隆昭

大宮国道事務所長 阿部 俊彦

道路計画第一課長 大谷 彬

4. 議 事

(1) 挨拶

・ 関東地方整備局 道路部長

(2) 審議

令和5年度新規事業候補箇所の新規事業採択時評価

・ 新規事業候補箇所の選定の考え方

・ 新規事業候補箇所説明資料

一般国道20号 諏訪バイパス

計画段階評価について(一般国道6号 小美玉道路(仮称))

(3) その他

<委員からの主な意見等>

■令和5年度新規事業候補箇所の新規事業採択時評価

○一般国道20号 諏訪バイパス

- ・新規事業化については妥当である。
- ・道路ネットワークとして必要な路線であり、坂室バイパスや下諏訪岡谷バイパスと一体的に評価することで、費用便益比（B/C）が2.3と高く出ているので、問題ないと考えられる。
- ・長野県の諏訪地域は人気観光地が多数あり、バイパスが繋がることで、観光地間のネットワークが形成され、広域周遊観光に大きく寄与することが期待されることから、非常に重要な路線と考えられる。
- ・トンネル構造が多いが、施工にあたっては地下水への影響に配慮が必要である。
- ・特に、トンネル部の歩道については、地域の方に如何に利用してもらえるか、また、自転車交通に対する歩行者の安全への配慮などを踏まえて、整備した方がよい。

■計画段階評価について（一般国道6号 小美玉道路（仮称））

- ・対応方針（案）については妥当である。
- ・今後を作成する資料は、「周辺地域に残る自然環境や点在する歴史文化資源の保全」の位置を、わかりやすく図示いただきたい。
- ・オープンハウスについて、地域の公共施設など、情報が入らずに知らない方々も立ち寄りやすい場所では実施することは重要である。
- ・地域の方々とのコミュニケーションを重視してプロセスを進めて来た良い事例である。特に、代替案を比較する際の評価項目を、地域の声に配慮しながら作り上げており、大変良い進め方をしている。計画段階から地域の声に配慮しながら進めることで、今後の都市計画段階や事業段階をスムーズに進めることが出来ると考えられる。
- ・自転車の通行環境については、地元関係者と協議しながら、どのような自転車ネットワークを作っていくか検討いただきたい。

■その他

- ・核都市広域幹線道路（埼玉新都心線～東北道付近）の地元検討会について報告した。

以上